

(1) 対象施設の配置方針(素案)について

No.	主な御意見等	回答・対応
1	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習館、湖畔荘、療育支援センター、つくし作業所は、建物だけというよりは、どんな行政サービスを提供していくかという検討が必要になると感じました。 ・四中地区公民館は、地区の中での施設のあり方という検討が必要で、地区内の施設の統廃合の動きを見据えながら検討する必要がありますと思います。 ・荒川沖の学習等供用施設は、こちらが方針を決めても、受け取る側の用意もあるので、担い手も含めた検討が必要だと思いました。 ・今回の計画は公共施設の集約などが主眼となっているが、他の分野で検討しないと決められない所もあると思うので、他の分野とこういう検討が必要ということが、まとめられると良いと思いました。 ・レストハウス水郷などは、Park PFI など、公園全体を丸ごと民間と一緒に運営していくような動きもあるので、公園の管理者とともに検討できると良いと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見のとおり、施設のサービス内容や、集約の場合は同種の施設、複合の場合は近辺の施設など、様々な施設との検討が必要であると考えています。 ・今回対象としている施設は10施設となっており、類型ごとのサービスの内容については、来年度から3年かけて、残りの178施設を検討する中で整理していきたいと考えています。それについては、今後の計画の推進体制やスケジュール、取り組んでいく内容に関係していく部分ですので、頂いた意見を参考により良い方法を模索しながら進めていきたいと思っています。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習館や勤労青少年ホームは亀城プラザに機能を移すという話だと思うが、空き枠数からは十分でも、駐車場が少ないことや、利用料金が高い件については検討していますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の検証は、計算上、平日・休日ごとや時間帯別の空き枠数の状況で検証させて頂いています。 ・亀城プラザでは、駐車場の問題や、利用料金が2倍以上違うという問題があることは事務局側でも把握していますので、今後、その辺りを精査していければと考えています。 ・なお、今回は計算上、亀城プラザの空き枠数で対応可能としていますが、実際は、各地区公民館でも受け入れ可能な部分があるため、すべてを亀城プラザで賄う必要はないとも考えています。

第2回土浦市公共施設等再編・再配置計画策定委員会での主な意見について

No.	主な御意見等	回答・対応
3	<ul style="list-style-type: none"> 荒川沖の学習等供用施設のイメージがあまりできないのですが、民間に委託するとなると、一般企業とかに買ってもらい、そこが利用するというイメージなのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 荒川沖東部学習等供用施設は、地元の団体に管理運営をお願いしている状況で、町内にある公民館のような利用がされています。 こちらの町内に集会施設がないため、現在の建物をそのまま使うのか、取壊して町内の公民館を建てていただくか、地元との交渉から始めていければと考えています。
4	<ul style="list-style-type: none"> 前回の委員会の時の意見とその回答と対応について、会議当日に答えた回答と対応が書かれているのですが、実際検討してどういう結果になったかということを書いてもらった方が、会議で話し合った内容がどう反映されているかが分かるので、検討した結果の表記をお願いしたいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、ご意見をいただいて対応した部分については、そのように表記します。
5	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設を適切に再編、再配置を行い、改めて社会・住民のニーズに合った見直しをしていくことは非常に重要な施策と考えます。そのために客観的なデータなどをもとに適正な判定を行うことが肝要です。 そこでフローの1次判定の基準として「設置目的・稼働率・コスト」を基準にしていますが、ここでいう「設置目的」は少なくとも40年の時を経て当初の設置目的から人口構成、社会環境の変化によって異なってくることは十分にありえます。 従って、今後、急激な社会変化、急激な人口減少など踏まえれば当初の設置目標うんぬんをいうより、速やかに誰でもいつでもどんな状況の人でも安心して現実に即したニーズ、多様な機能を臨機応変に付加して一つのハコモノで対応していくことが求められるのは必定でしょう。今現在そのような考え方・対応が求められる時代において設置目標に即している・即していないとかの判定基準は非常に違和感を覚えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 政策目的を達成するための手段として施設を設置していることから、設置目的についても、1つの判断基準になると考えています。 例えば、青少年の家は、青少年の共同生活のための施設となっていますが、施設規模が小さいことや、自然に囲まれた環境でないため、活動内容の選択肢が少ないことなどから、学校の宿泊学習では利用されていない状況です。 また、勤労青少年ホームは、中小企業に働く青少年（15～35才）のための施設となっていますが、実際は40代以上の利用が80%を占めており、また、法改正により、設置根拠規定は廃止されています。 設置目的を満たしていない施設については、それだけで「必要性が薄い」と判断するのではなく、現在の利用状況やコストなど、施設の性質や現状を踏まえて総合的に判断する必要があると考えています。 以上のことから、1次判定の基準を「設

No.	主な御意見等	回答・対応
	<ul style="list-style-type: none"> 40年前の設置目標を判定基準に持ち出しでもあまり意味がないのではないかと考えます。それより「稼働率・コスト」に焦点を当てて判定しては如何でしょうか。 	<p>置目的・需要・コスト」としています。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> 特に土浦第一中学校裏の生涯学習館、勤労青少年ホームなどは街なかにあります。用途廃止・移転などになれば空き地となるのでしょうか。ハコモノを減少するわけですから新規に作られることはないと思います。 そこで何とか、今の建物を生かして、子どものための室内スポーツができる建物を残してほしいと思っています。第9次総でも「子供がいきいきと育つまち」は4つのリーディングプロジェクトの一つとして位置づけられています。 昨年私たちはオリ・パラで様々な競技があることを知ったと思います。野球サッカーなどのメジャーなスポーツばかりでなく、そこに行けば何かの運動ができる、インストラクターの見守りの中で、安心してだれでも参加できる、そんな子供の居場所づくりが欲しいと思っています。パラスポーツの競技もあって、インクルーシブ教育にもなれる場づくりが欲しいです。 以前、北欧研修で見た学校帰りの子どもたちが体育館のマットの上で飛んだり、跳ねたり、バトミントンや平行棒など様々な運動をしていた光景を覚えています。土浦市は何を優先して再編、複合化していくのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見のとおり、生涯学習館や勤労青少年ホームは便利な場所にありますが、両施設とも老朽化が進んでおり、また利用者数も少ない状況です。また、生涯学習館は耐震性がなく、エレベーターもないこと、勤労青少年ホームも体育室の耐震性がないことなどから、現在の施設を利用し続けるためには、多額の費用が掛かることを見込まれます。施設の規模、利用状況、老朽化の状況や間取りなどからも、別の用途に転用して残すことは、難しいと考えています。 なお、現在の施設を廃止した後の跡地の利活用や、ご提案いただいた子どものための屋内スポーツ施設の必要性などにつきましては、今回の策定委員会で検討するのではなく、現施設の方向性を決定した後、次年度以降に各担当課を交えて検討してまいりたいと考えています。

第2回土浦市公共施設等再編・再配置計画策定委員会での主な意見について

No.	主な御意見等	回答・対応
7	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の資料で、10施設を判定する際に、細かく稼働率などを見ているので、判断しやすくいいと思いました。 ・判定フローが今後の判断において一番の元になると思います。今ある施設が無くなるのか、どこかと一緒になるというのは、必ず反対意見が出ると思うので、判断のためには、今回の判定フローや参考資料のようなデータを把握して進めていった方が良くと思います。 ・これからは、土浦市単独で考えるのではなく、広域行政が必要だと思います。自治体単独では維持できないから、広域でお互いに施設を利用し合うというのを考えた方がいいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、10施設の検証の詳しい内容を示したものが、参考資料となっており、資料3の個別シートは参考資料の中の主な事項を抜粋したものとなっています。 ・ご意見のとおり、今後も詳細なデータに基づき施設の方針を検討していきたいと考えています。 ・広域的利用については、今回青少年の家の宿泊学習での利用状況を調べている中で、学校でも、県内の他市町村にある施設を利用しているという状況がありました。今後、別のサービスの内容の施設も、広域的な利用を視野に入れながら検討していきたいと考えています。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果で、四中地区公民館や生涯学習館については、70代の利用が多いようですが、コロナ禍で若い方や、母親世代の集まり（母親サークル、PTA活動など）には人数や条件の規制があるので、使用できなかったことも要因の一つになっていると思います。もう少し長い目で使用者の把握をお願いしたいと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートにつきましては、コロナ禍における利用状況であり、平時との利用とは異なっていることや感染症に伴うニーズの変化なども踏まえ、今後の施設のあり方を検討してまいりたいと考えています。 ・なお、利用者数や稼働率などは、コロナ前を含めた3ヵ年平均としています。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・別の方のご意見にもあるように、今の子ども達は外で遊んだり、友達と一緒に何かをするという場所が少なくなっています。中学生は特に公園などで遊んでいると小さい子供があぶないからと注意を受けるようです。青少年の家などはそういう子どもたちがもっと活用できる場に変えていくことも一つの方法だと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の施設を廃止した後の跡地の利活用や、ご提案いただいた子どもたちが遊ぶ施設の必要性などにつきましては、今回の策定委員会で検討するのではなく、現施設の方向性を決定した後、次年度以降に各担当課を交えて検討してまいりたいと考えています。

第2回土浦市公共施設等再編・再配置計画策定委員会での主な意見について

No.	主な御意見等	回答・対応
10	<ul style="list-style-type: none"> 今後のアンケートも、中学生、高校生も対象にどういう施設を残して欲しいか（学習場所やみんなが集まって作業をする場所など）の意見を聞くこともこの先の参考になると思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見のとおり、これから公共施設を利用していく世代に意見を聞くことも必要かと思っておりますので、次年度以降に検討していきたいと思っております。

(2) 市民アンケートの実施について

No.	主な御意見等	回答・対応
1	<ul style="list-style-type: none"> 先ほど丁寧に説明いただいたので、私たちは理解できたと思うのですが、アンケートを答える人がどこまで理解できるかと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局としても、ご指摘の点は認識しており、説明もできるだけ簡略化に努めました。内容を理解していただくために検討した結果、このような分量となっておりますので、ご理解いただければと思います。
2	<ul style="list-style-type: none"> 確かに文字も多いし、情報量も多いと思いますが、時間の事もあるので、アンケートはそろそろやって頂く必要があると思います。 また、並行してなにか意見を聴取することも考えてみてほしいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民の意見を聞く方法等につきましては、市民アンケートのほか、パブリック・コメントを予定しています。 パブリック・コメントについては、意見を提出頂きやすくなるよう、パソコンやスマートフォンから直接送信できる、専用の入力フォームを設ける予定です。